



シリーズのなかで唯一人物がモチーフである「禅那 - zen na -」。
作家活動を始める何年も前に亡くなった祖父が禅宗の僧侶である達磨を墨で描いていたことを思い出し、
「禅の円からの作品を制作しているからちょうどいい」と勝手に引き継いで生まれたこのシリーズ。
祖父の達磨をイメージして刃を走らせ、達磨の表情を表す目の部分は「よし、ここだ！」と構図などは
考えずぶっつけ本番で入れる。
目を入れる位置や視線の向く方向で表情が全然違うので目を入れる瞬間その時の心情がそのまま出ている
「自身の心の自画像」ではないかと今回の出展作品に選んだ。